広域連携で災害対策

―国体・最少経費で最大効果を―

六月定例市議会の中で大町市長は、課題山積の市政に強い意欲と今秋の市長選への再出馬を表明しました。

一般質問は六月十九日から二十一日までの三日間行われ、高島、山本(弘志)、福田、竹内、今西、紀伊、島内、山崎、井上の各議員が質問に立ち、市長の政治姿勢や空港問題、市総合計画などについて執行部の考えをただしました。

主な内容は次の通りです。

問 大町市長一期四年間の総括と来期への抱負について

答 四年前、「市民党」の立場で、市民参加の行政を念頭に、生涯をかけて郷里の発展に尽くす覚悟で、市政を担当させてもらった。

議会の理解を得て、車の両輪の関係で頑張ってきた。おかげで、前進の兆しが見え始めたもの、着工することができたもの、完工したものなどがある。財政力をアップさせるとともに、地方分権の時代になり、行政制度の変化や厳しい時代の到来が予測される今日、念願の重点施策を、さらに前進させたいと考えている。市民の新しい要望など、その期待に答えるとともに、引き続き行政を担当することによって副県都としての飛躍をめざしたい。

問 空港再拡張について

答 県・市の発展の鍵を握る空港拡張問題は重大な時期にきている。市民の立場にたって合意形成をめざす。

空港再拡張に伴う営農対策について農業後継者や関係者と協議するなかで、一部に営農集団化を望む声があり、県・市で検討していく。これを千載一遇のチャンスと位置付け、制度についても有利栽培、有利販売を視野に、法人化も考えながら進めたい。

問 国体競技施設について

答 手づくり国体を目指し、有利な財源の確保、土地の有効利用、とりわけ公共用地の有効活用を考え、県当局とも話しあってきた。最少限の施設での対応を目指し、汗北部にある県有地の借用について申し入れたが、まだ返事はもらっていない。県の財産であり、用途を固定する場合は、買収を必要とするのではないかと考える。借りた場合でも、施設は市が建設することになる。国体開催の結果、市の財政に赤字を誘発させるようなことにならないため、最少の経費で最大の効果をあげるように努力する。この機会に、多目的施設の新設を考えたい。体育関係機関の整備充実については、民間活力主体の施設運営も含め、スポーツ文化の運営管理を地域で担当する方法もあり、これらを法人化するなどして充実させることも考えたい。

問 地震災害対策は

答 住民の命と財産を守るため、いろいろなケースを想定して取り組んで行きたい。広域での連携、応援協定の提携も検討されている。消防を中心に、県下全市町村を対象とした連携を考えたい。

食糧などの備蓄は、企業や関係の団体とも協定して、優先的に供給可能な確保を目指したい。公的な備蓄以外には個人の備蓄も検討課題になっている。

危機管理教育として児童生徒に対する防災教育、社会教育事業での思想啓発などの教育に努力したい。六月十三日、山間部、中央部、南部海岸線の危険か所を点検した。危機管理は常に意識していなければならず、対応策として、市役所の指揮命令系統の整備、マニュアルの作成、地域の組織活動の活性化に取り組む。

問 消防庁舎の移転、後免分団のポンプ車について

答 消防庁舎の移転については、関係者から要望があり、防災拠点施設の整備とも合わせ、出動に便利な、幹線道路沿いが望ましいと考えている。出初め式その他の訓練も出来る、相当の面積が必要だ。

後免分団へのポンプ車については、現状車種での対応を考えている。

ほ場整備を推進

後継者対策 生産性の向上

▲ほ場整備完了後、さっそくこのような効率的な方法で農薬の散布を行っています。

問 基幹産業について

答 南国市は、農業を核として発展した歴史があり、先人の歩みの中に学びながら真剣に取り組んでいく。後継者対策や生産性の向上、販路の問題などの他、ほ場整備を進めたい。農業重視の方針は変わることなく推進する。

問 最終処分場について

答 八京地区への、処理場建設は、棚上げの状態で現在に至り、迷惑をかけている。現在、香美郡の町村など、広域での対応を模索している。基本的には、ゴミの減量、リサイクル策などを一連のものとして考えたい。本年度は具体的な詰めをする年と位置づけ、関係の町村と、県の参加も要請して協議したい。正念場となってきている。

問 農業のし尿処理場跡の利用計画はどうか

答 当該施設は十二月末日までに使用を取りやめる、新処理施設は委託して管理する計画だが、これに万一、事故がある場合、また、不審などを測できない事態への対応を考え、施設は現状維持としたい。

問 ケーブルテレビの設置について

答 マスメディアの時代であり、自治体としては、遠隔地医療、行政からの情報発信、映像や音声などの広域での双方向交換システムなどへの利用が考えられるが、加入率など運営の面では厳しいものがあるので、今後の課題としたい。

問 水資源の対策は

答 水問題についての調査は、資源量、必要量などのデータが不十分であり、早急に調査を進めたい。保水力のある山づくりも重要と考えている。戦前戦後の水争いを考える時、先人の偉業に思いをいたし有効な利用に心がけたい。人口の増加、産業や環境の変化に対し、二地利用と水問題については、新しい考え方を必要とする時代になったと考える。物部川水系の広域的な取り組みも重要であり、健康文化都市のテーマとしても取り組みたい。現在の市域でのバランスは良好と考えている。

問 市総合計画はいつ完成の予定か

答 企画課で年内には作成する予定で作業をすすめている。

問 いじめの問題について

答 油断はできない。地域、市民全体の問題として位置づけるとともに安全対策の面からも対応したい。

問 国府川の改修について

答 予算の獲得を目指し、新しい折衝の方法も考え本格的な取り組みを実施したい。災害にも大きな影響が考えられることであり、要望事項の取りまとめも必要と考える。

問 広報の公器性と議会報の発行について

答 市民とのパイプ役としての公平な広報紙の発行を心がけている。市民の幅広い参加を望みながら慎重に取り組んでいるが、さらに改善も加え、透明度を増していきたい。

議会報の発行には賛成だ。議会の意志に添った対応をしたいと考えている。

問 農協病院の移転問題について

答 農協病院の移転については、医療の中核施設であり、医科大学や一般の医療施設との関連を考えても、市域外へ出ていってもらっては困る。

問 職員の給与について

答 ラスパイレス指数（国家公務員給与を基準とし比較した指数）が他市町村に比べると高くなっているのは、過去の労使間の協議の結果生じたもので、今後の課題としたい。既定の給与制度を二年間凍結した結果、ラスパイレス指数はゆるやかに下降をしている。凍結により職員間の格差がうまれたが長期に放置できることではなく、昇給の短縮・延申により格差是正を図っていく。労使間のやむをえない処置とご理解いただきたい。